● **新指定答申文化財の概要**

【 種　別 】有形文化財　書跡

【 名　称 】紺紙金銀字千手千眼陀羅尼経

（こんし きんぎんじ せんじゅせんげんだらにきょう）

附　経箱　１合

（つけたり　きょうばこ　いちごう）

【 員　数 】１巻

【 所在地 】津市大門

【 年　代 】平安時代

【 法　量 】縦 25.2 ㎝×長さ 714.8 ㎝

【 概　要 】津市大門に所在する観音寺（津観音）の本坊（ほんぼう）である大宝院が所蔵する平安時代の経典です。紺色の紙に金泥と銀泥を一行づつ交互に替えながら「千手千眼陀羅尼経」という経典が書写されています。見返しには、金泥・銀泥で釈迦が説法する場面が描かれています。

このような紺色の紙に金泥と銀泥とで交互に書写された平安時代の経典には、奥州平泉の藤原清衡（ふじわらのきよひら）（1056～1128）が発願（ほつがん）した「中尊寺経（ちゅうそんじきょう）」と呼ばれる経典群があり、現在は中尊寺のほか、高野山金剛峯寺（こんごうぶじ）等が所蔵しています。

当資料はこの「中尊寺経」と見返しの絵や罫線の幅等といった同じ特徴を有しており、かつ現在確認されている「中尊寺経」の中に同じ名前の経典はないことなどから、「中尊寺経」の一つであると考えられる、大変貴重なものです。

附の経箱には、江戸時代に修理されたことが記されています。